

☆年間第31主日(10月30日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (知恵の書 11章 22-12章 2節)

主よ、御前では、全宇宙は秤をわずかに傾ける塵、
朝早く地に降りる一滴の露にすぎない。
全能のゆえに、あなたはすべての人を憐れみ、
回心させようとして、人々の罪を見過ごされる。
あなたは存在するものすべてを愛し、
お造りになったものを何一つ嫌われない。
憎んでおられるのなら、造られなかったはずだ。
あなたがお望みにならないのに存続し、
あなたが呼び出されないのに存在するものが果たしてあるだろうか。
命を愛される主よ、すべてはあなたのもの、
あなたはすべてをいとおしまれる。
あなたの不滅の霊がすべてのものの中にある。
主よ、あなたは罪に陥る者を少しずつ懲らしめ、
罪のきっかけを思い出させて人を諭される。
悪を捨ててあなたを信じるようになるために。

第二朗読 (使徒パウロのテサロニケの教会への手紙II 1章 12節-2章 2節)

皆さん、わたしたちはいつもあなたがたのために祈っています。どうか、
わたしたちの神が、あなたがたを招きにふさわしいものとしてくださり、また、
その御力で、善を求めるあらゆる願いと信仰の働きを成就させてくださるよう
に。それは、わたしたちの神と主イエス・キリストの恵みによって、わたした
ちの主イエスの名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主によって
誉れを受けるようになるためです。

さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストが来られることと、その
みもとにわたしたちが集められることについてお願いしたい。霊や言葉に

よって、あるいは、わたしたちから書き送られたという手紙によって、主の日は既に来てしまったかのように言う者がいても、すぐに動揺して分別を無くしたり、慌てふためいたりしないでほしい。

福音朗読（ルカ 19 章 1-10 節）

そのとき、イエスはエリコに入り、町を通過しておられた。そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見ることはできなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

秋晴れの天気が続いています。いわゆる行楽日和です。この天気をよそに主日のミサに参加され、ありがとうございます。きっとより一層のお恵みがあるでしょう。

先週私は幼稚園の用事で九州・長崎に行ってきました。それで、時間を見計らって日本二十六聖人の殉教の道を歩いてみました。西坂の丘に至る道は浦上街道で到着するのですが、どこでどう間違ったか、最後になって迷ってしまいました。西坂の丘の上のほうまで行ってしまっていたのですが、幸運にもその場所からはるか下に聖フィリッポ教会の二つの塔が見えたのでそれを目指して降りていき何とかたどり着くことが出来ました。殉教者たちの苦勞が少し味わえました。

さて今日のミサでは有名なザアカイの話が出てきます。イエスに遭いたいばかりに木に上っていたザアカイは、幸運にもイエスに声を掛けられ、自宅に迎えることが出来ました。私たちもこのザアカイの勇氣に倣って、イエスを迎える心を育てましょう。

第一朗読（知恵の書 11 章 22-12 章 2 節）

知恵の書のこの個所は創造主である神の全宇宙に対する愛の心が表現されています。神の望みが全宇宙の存在の源であると宣言しています。またすべての人を愛されるゆえに、人々の罪を見過ごされ、諭されます。「お造りになったものを何一つ嫌われない」と述べて、すべてを愛おしまれると宣言しています。この知恵の書を読むときに、私たちは神の慈しみを感じ、感謝の念に浸ることができるでしょう。何度でも読み返したくなる個所ですね。

第二朗読（使徒パウロのテサロニケの教会への手紙 II 1 章 12 節-2 章 2 節）

手紙が書かれた当時、テサロニケでは誤った信仰が広まっていたようです。つまり、「もうすでに主の日はきてしまった」という考え方です。だからもう何もかも終わりだという自暴自棄になってしまった人がいたようです。パウロはこの状況を憂いて、この手紙をしたためたようです。「分別をなくしたり、慌てふためかないように」と。第一朗読の知恵の書はこの点、私たちに対する神の愛を思い出させます。「あなたはすべてのものを愛おしまれる」のです。「神は私たちをお見捨てにはならない」のです。失望したり、絶望したりしないで、力強く主イエスの再臨を待ちましょう。

福音朗読（ルカ 19 章 1-10 節）

当時のユダヤ社会ではここに出てくるザアカイは占領者に味方する徴税人ですから、人々からは疎まれていた人物です。そのザアカイがイエスに興味を持ったのはなぜでしょうか。イエスがまじめな人だとか、律法をよく知っ

ていてそれを守っている人に対しておもねることなく、かえって病人だとか、罪人や、ひとからさげすまれている人たちに近づいて行かれていたからではないでしょうか。イエスは医者が必要なのは病人であると言われていたのです。そこでザアカイは思い切った作戦に出ます。背が低かったというコンプレックスを逆手にとって、小柄なザアカイはひょいと木に登ったのです。イエスがそれに気づかないはずはありません。早速ザアカイに声を掛けられます。ザアカイにとっては、イエスから声をかけられるなんて思ってもみなかったでしょう。うれしさのあまり、今までの悪行の罪滅ぼしをイエスに宣言するのです。イエスは「今日救いがこの家を訪れた」と言われます。イエスの気持ちとザアカイの気持ちが一致した瞬間でした。イエスに出会うには、まず行動を起こすことが必要なのです。



日本二十六聖人殉教の地 西坂の丘 聖フィリッポ教会 (2022年10月24日)

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光